

培養によって得られた *Eunotia tropica* Hust. の大きさの範囲

Size reduction of *Eunotia tropica* Hust. in a culture

真山茂樹

Shigeki Mayama

Reprinted from

Diatom

The Japanese Journal of Diatomology

Vol.10, No.1, p.93

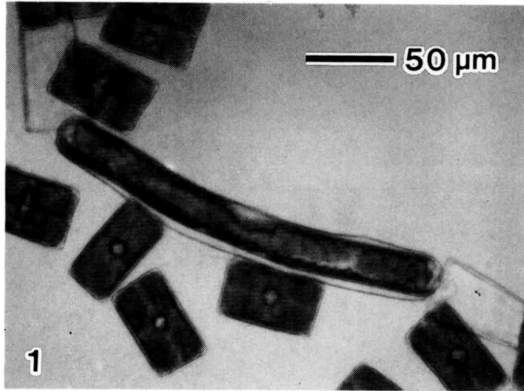
The Japanese Society of Diatomology

January 10, 1995

Diatom, 10, 93, January 1995

真山茂樹：培養によって得られた *Eunotia tropica* Hust. の大きさの範囲
Shigeki Mayama : Size reduction of *Eunotia tropica* Hust. in a culture

Key index words : auxospore, diatoms, *Eunotia tropica*, morphological variability, size reduction.



採集地点：滋賀県布施溜池産の試料を培養。

採集年月日：1987年3月31日。

試料番号：K-6476。

コメント：布施溜池の湿地から採集した *Eunotia tropica* を単離し単藻培養したところ約5カ月後に増大胞子の形成をおこなった(図1)。配偶子母細胞の長さは50-82 µmで、出井(1993)が報告しているように配偶子母細胞2個から増大胞子1個を作った(なお著者はこの培養株の他、新潟県郡殿池から得た本種の2クローン培養株の混合によっても同様の増大胞子形成を観察している)。増大胞子のペリゾニウムの中に形成された初生細胞を図1に示したが、この両側には被殻のみとなった配偶子母細胞がまだ付着して残っている。増大胞子形成後に生じる初生細胞は長さ約190-200 µmであった。

初生殻は殻面と殻套の区別ができない細長いドーム形であったが、その後の分裂により形成された通常の栄養殻は殻面は平面で殻套と区別ができるものであった。しかし、殻端部が膨れ、背側の波打ちはかすかとなり(図2, 3)増大胞子形成前の個体(図5, 6)とは大きく外形が異なった。しかし、分裂を続け次第に殻長が短くなるにつれ殻端部が細くなり、また背側の波打ちも明瞭になった(図4)。背側の波打ちは殻長が短くなるにつれ7から4まで変化した。

引用文献

出井雅彦. 1993. *Eunotia tropica* Hustedt. pp. 258-259. 堀輝三(編)、藻類の生活史集成3巻. 内田老鶴圃. 東京.

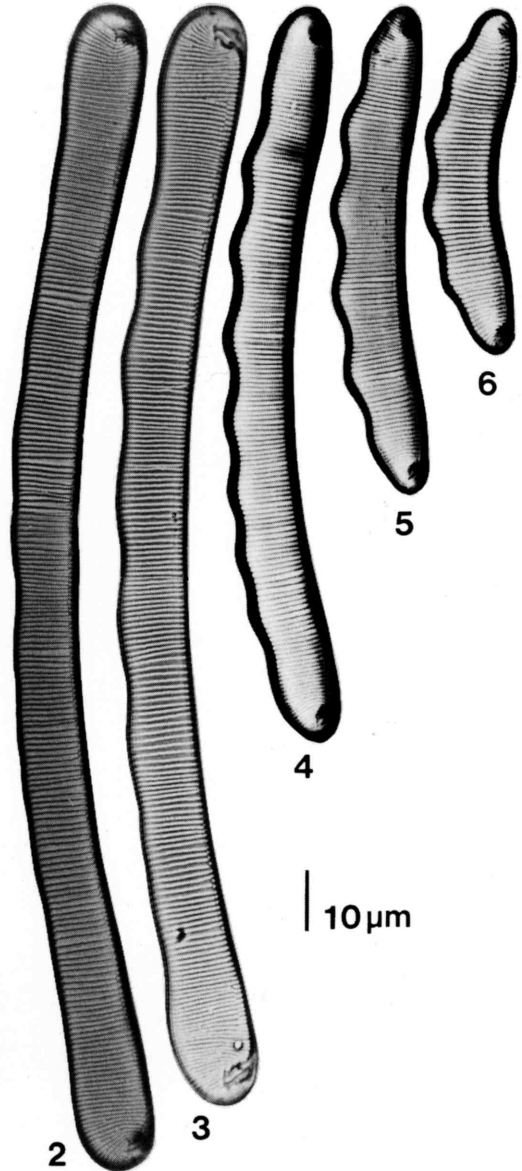


図1. 培養された多数の増大前の細胞および増大胞子のペリゾニウムの内側に形成された初生細胞。LM. x270. 図2-6. 栄養殻の殻面観。LM. x800.

〒184 小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学生物学教室. (Department of Biology, Tokyo Gakugei University, Koganei-shi, Tokyo, 184 Japan)